都高時報
第22号
都大附高新聞部
目黒区衾町159
編集責任者　松原　良

活潑な討論から全校的統一へ

「寮歌だけ」「新しい歌も」

記念祭を二週間後に控えた去る十五日始んど全生徒出席の下に生徒大会が開かれた。会においては梶川記念祭委員長の中間報告に続いて活潑な討論がなされた。先ず議長に細野さん(三B)、副議長に髙岩(三B)清水君(二A)を指名、午前十一時十分直ちに大会に入り、午後一時会は最高潮に達したが、いつものとおり時間の不足から、やむなく閉会した。

最初、梶川塾行委員長から「記念祭は全体の統一を保つため三日とする。劇の制限はクラス本位とした。」との報告があり次いで質疑応答に入った。

田中(三C)「校友会と二C二Aの劇をカットしたことについて説明してほしい。」

梶川「校友会は趣味を同じくする人の集りだからいつでもまとまれる。」

髙舘(三C)「クラブ活動は危機にひんしている。自治活動でクラブ活動が大きな位置をしめているのだから クラスを 上とするのは不当だ。 カットする 基準がまずい。」

宮下委員(二C)「委員会としてはもっとも多くの人の参加を目的としてこの処置をした。」

栄井(三A)「もっと具体的なことを討論してほしい。一時的な感情で抗議を申し出るのは遺憾だ」

田中「塾行委員会は横柴だ。自分の疑問をのべるから答えて欲しい。①生徒を主とするのか先輩を主とするのか。②重大問題を短時間で決めるな。③何故生徒大会へはからないか。④カットされたサークルへの善後策は講じたか。⑤会の活動を知表せよ。以上である

梶川「①あくまで生徒が主体だがこの学校の生活をとおつて来た人との関係も大切だ。②必ずしも短時間ではなく、委員会の方針が確定したからだ。③生徒大会での決議は不必要だ。この位の権限は委員会にあると思う。④展示という方法を考えている。」

倉田委員(二B)「⑥最終決定は木曜のつもりだった。」

こゝで議長の建設的な案を出してほしいとの要望があった。

髙舘「①記念祭の三日内文化二日を確認せよ。②カットすべきか③それならカットの基準を決めよ自分としては、クラスとクラブを同等に見て欲しい。(イ)劇は一時間以内(ロ)展示と劇をする所は展示(ハ)創作劇優先(ニ)小人数の劇カット以上を提案する。」

①②を確認した後③について

宮下「委員会にカットの基準は一任すべきだと思う。」

髙舘「自治会の最高機関は生徒大会である。」

この会で基準決定を採決。

岡本(三C)「記念祭を軽視しすぎる。サークルの統一のための手段としてのみこれを考えるなら全校的統一は失われる。記念祭はあくまで都立生徒全体の意志の発表でなければならない。」

これで生徒全体の意向としてカットの基準に髙舘案を確認し続いてファイヤーについて討議された

猪狩委員(三B)「今年を盛大にやりたい(拍手)ここでの問題は形式と歌である。」

髙舘「ファイヤーは静的に。」

西山(二C)「おどる形式から歌う形式に。男子だけのものでは ない。」

深川(二C)「失張りおどってよい。ただ女子を無視せずに。」

林(二C)「歌は制限せず明るい女子にも歌へる歌を。」

倉田「制限 必要、寮歌と歌おう。」

岡本「ファイヤーの反戦自治の伝統は長いが形だけ受けつぐのでなく我々が創造して行かねばならない。委員会の統制で新らしい形を作ろう。」

八木(三A)「混乱をおそれる者で歌へる歌は寮歌だけだ。」

こゝで時間一杯となり最後に大石先生の「各サークルの独自性を保ちながら、全体の統一に向つたことは近来にない発展だ。お互いの矛盾を把握した上でそれを解決するための全校的統一へ。これが今後の最大問題だ。」との発言によってこの会の幕は閉じられた。

歌は制限せず

執行委決定す

全校で問題となつたファイアーとその時に歌う歌について執行委員会で討論された結果をまとめて決定が発表された。

各クラスサークルで討論された中で出て来た事は、歌の問題については賛成意見として「伝統の単なる引きつぎではいけない。我々が生きている現実の上に立つて伝統を発展させて行く立場が必要だから寮歌や学生歌に限るのは良くない」、反対意見として「混乱を起すのは良くない。又違う歌をうたわれると気持が悪い。」という事で反対する人達の意見は感情的ではとんど理由にならないのではないかという事になり、又混乱が起るという事はこの場合には問題にする必要はないという事になった。そして結局歌は制限しない事にきめた。ファイアーの形式も、我々が現在転換期に立ち、そのため新しい形をきずいていく立場を確認し、具体的には、最初と最後に火の周りを全生徒で輪になつて歌をうたい、その中に各クラス、サークルで歌ったり踊ったりするが主眼はあくまで全生徒に依る大団円におき、九時ごろ解散するという事にした。

相互理解のために

父兄との懇談会開かる

十月十日第一回の父兄との懇談会が生徒課、自治会共催で行われた。第一回は九月七日組合主催で行われたがその席上、生徒と父兄との結びつきの欠如が指摘されたこのはげしい歴史に生きる我々若い世代が何を考え何を求め、どんな問題に対処して苦悩しているか何を喜びとして生活しているか、共に考え共に悩みたいという父兄の声があつた。また、共に考えてもらいたいという生徒の声があつた。そしてこの二つの意見は第一回の懇談会を約してその日はわかれた。第一回は不充れのためもあり会の趣旨は徹底されず準備会程度として終つた。第二回は第一回の失敗を補うため、生徒の声を中心とする、所謂生徒の感想発表を中心としてはじめた。河尻1A、栄井3A、土淵1C、梅田2A、深川2Cの諸君が次々と発言してくれた。これを中心として討論に移つた。生徒の意見には共通点が認められた。親の素朴な愛情を認めた上に立つてはいたが、親の愛情がいわゆる古い思想の固定観念の上に立脚している事、結果的に子供の個性の世界に現実した圧迫を与えている事、また我々の純粋な生活への欲求と現実へ生活を余儀なくされている親との間のギャップ、総じて飛躍した若い世代との時代的ズレがとりあげられ親達もこれに対し何らか反省しなまればいけないという見解に達していたが、親の本当の姿は仲々出されようとはしなかつた。特に女子の立場から女の子だからという封建的な女性蔑視の観念の中からの、女性への圧迫という問題がとりあげられた。しかし出席された父兄たちは皆理解ある父兄ばかりらしく、それに対しての親の立場は全然述べられなかつた。そしてこの問題は殆んど討議されぬ内に終つてしまつた。

最後に受験の問題がとりあげられた。受験は高校生の最後の目的であるから、よろしく受験勉強すべきであるという意見が述べられた。結局試験準備をしなければいけないという意見であつた、そしてこれが親の固定観念ではなかろうか。子供の世界を認めず規定した親の観念で律している親の考えではなかろうか。

が規定された時間に行わなければならなかつたので会はこゝで閉じたが、まだまだ話しあつていかねばならぬ問題がいろいろある

大きな事は、我々はこゝですぐ解決しようというのではなく、お互いの気持が少しでも交流し振興し合つてゆかねばと思うのである。

基地調査の成果から

東京都社研連生る

去る十月三日(土)本校一C教室で東京都高校社研連の結成大会が行われた。新宿、西、青山、小石川、本校等十二校が集まり、夏休みを通じての成果をまとめ各校社研の交流、発展のための組織として正式に発足する事をきめた。

会の性格について先づ討論を進め、その中で、夏休みの八川、朝霞基地の調査活動の中で得られた結論＝一つだけの学校でやるよりも沢山の高校が集まって活動をした方が成果があり、やり易い＝が確認され、更に各校の今までの活動の中で種々な不充分な点や間違えていた点等を批判し合い、直してゆき、更に高校の人達から、自分達の生活と研究活動を結びつけを行く現実の問題として互いの団結を強めて行く事が要求されているという事が発表され、社研連の性格というものをここに賢く事がきめられた。各学校の社研を単位として(個人加盟を認める)附近の高校と研究会の交流を行って行き定期的な共同研究会を設ける事等をやって行く事になった。

そして当面の活動として、今各校で行われている、学園祭、文化祭等の事を交流し、そのために新聞を発行して行こうという事になつた。合せてこの組織の拡大を各校で行う事にし閉会した。

新しい記念祭を創造しよう

主張

記念祭はいよいよ近ずいた。余すところあと三日どのクラスもサークルも準備に余念がないことだろう。生徒大会でも今年の記念祭をアの様なものとして行くか、全生徒の活潑な討論がなされ、"ファイヤーと寮歌"の問題などが大きく浮び上つて来た。

生徒大会などで特に注目されることは、何といつても全生徒が記念祭に対して多大の関心を示しすべての人の参加の下に行われようとしていることである。これはかつて見ることのできなかつたことである。

それと同時に、そのエネルギーが全校的に統一されようとしているのである。また"寮歌"の問題でそれが大きく浮び上つて来たが年々記念祭にうけつがれて行く、旧制的な古い感覚に対する新しい観点からの批判の問題である。これは我々の学園生活を強く支配していた生活態度と思想とに対する新しい時代にあつて、青年達が"古いカラ"を打ち破り、新しい記念祭を築き上げようとする精神の闘いといえるであろう。今までの記念祭は、新しい面を多分に有し、常に反戦の精神につらぬかれデカダンスとの闘いが強調されてきたが、また多く"マント寮歌"に現われる要素を含んでいたといえる。特に戦前には、記念祭自体が、社会の強い抑圧の波の中で苦しみ、敗北した学生達のはかない反抗の場と化していたのである。それは当時のインテリゲンチアが自己の良心を守るが故に、自己の内部へのがれていつたのとまた同じであつた。数多く残る寮歌が、自己と現実社会との隔絶を謳つたのもこれがためである。その現実との隔絶こそが、都立高校の生活を支配して来たのであり、日本の学生全体の動行でもあつたのである。

しかしながら、これは終戦の解放の喜びの中にも根強く残り、現在の生活にも大きな影響を与えていることは否定できない。都高の"伝統"がこの様なものでないとはいうまでもない。暗い生活、悲劇"と化していつたことも忘れ得ぬ事実である。

現在社会はめまぐるしく変化している。日本が米国への隷属の状態から、新しく起ち上ろうとしている。MSA、再軍備、問題に対し全国民の抵抗が起こされている内戦、戦争を中心とする基地反対闘争で、民族の自由への叫びと、平和への願望が最高潮に達している。学生の間でも、夏休に行われた帰郷運動では、学生が郷里を歌神、終戦後、自治会を再建し、学内の民主主義のため闘つてきた事実、破防法に反対し、吉永教師の授業に対してねばり強く闘つたそのエネルギー、これこそ我々の"伝統"として誇れるものなのである。八雲ケ丘にとゞまることを嫌り、デカルト、カントを論じていた先輩達も、結局は"わだつみの

ファイヤーのときの歌
私はこう考える

先日の生徒大会で、劇の問題と共に大きくクローズ・アップされた「ファイヤーのときの歌」の問題について、ここに種々の考えの人々に意見を聞き、次にかかげようと思う。我々はこの問題をただセンセーショナルにとりあげるのではない。対立を深めようとするのではない。紙面の都合上、七人の人達の意見しか載せられなかつたし、またその人達も字数に限り★があるのでその考え方を充分に言いつくしていないかも知れないが、大体一般生徒の考え方を代表しているものと見て良いと思う。そこで我々はこの事をとりあげて、これからの考え方を貰くものを見い出してもらい、喰い違つている点は何か、そしてそれは話し合いで解決できるという確信のもと解に全体的統一へと進む基にしたいと思う。（編集部）

新しい歌には賛成
しかし混乱を恐れる

先日行われた討論の時に私は"何故ファイアーの時にわだつみ会が選んだ四曲を導入してそれを全員に歌わせようとするのかそれが最大の疑問である"といつたのですが、残念なことにそれに対してはつきりした解答を得られず唯"平和を守るために"等といわれただけでした。平和を守るのは結構ですが、戦争なことにそれに対しては賛成です。しかしこれらの精神は永い間先輩から後輩に歌い続けられて来た歌の中に脈々と打つていることはすぐわかると思うのです。結局この点に集められてしまうと思うのです。わだつみ会の人々の言われることには賛成なのですが曲を選ぶ時に反対になるのです。要するにお口が上手すぎるんですね。今日廊下にハリ紙がしてあつたのですが、あの中にファイアーの時の混乱をたいして大きく扱つてないので、これもお口が御上手だからですよ。この間の討論の時の議長の指名その他にも一寸疑問があつたのは私だけでしようか。混乱を押えるのはやはり大きな問題だと思います。

（三A　田村啓介）

確固たる計画性を
記念祭執行委に

急速な変革期に入つた去年について、今年の記念祭は大きな転換を始めようとしている。たとえばファイヤーに新しい歌を歌おうという動きが特に女子を中心として大きく現われている。

そして、それだけに混乱が予想され統一が問題にされる。統一ある記念祭とするためには全生徒の堅い団結も絶対必要であるが同時に執行委員会の運営に計画性がなければならない。いい加減な態度手ぬるい態を反省してほしい問題を処理する際にもつと深く突込んでがつちりとやつてほしい劇のカツ

寮歌に固執するな

寮歌以外の歌を歌わせないという生徒総会の大勢には満足出来ない。歌の問題も、もつとしつかりと最いてくれていたら何も生徒大会にもち出す必要はなかつた。特に今年はファイヤーの運び方がむづかしい。どういう形式でどんな歌を歌い、どんなことをやるのか細い注意まで全生徒によく知らせて、気持よく進むことができるようにしてもらいたい。去年のように、「部のおどりをやらせる」とか「新しい歌を歌わせる」とかはじまつてからゴタつかないように注意してほしい。（三D富館孝夫）

統一という名のもとに、各サークルの独自性が失われるのは悲しむべきことといわざるを得ない。在校生はもつともつと騒くなるべきだと思う。何故に旧い寮歌に固執し、先輩の御気嫌のみをとる必要があるのか、"わだつみ会"にしても、堂々と新しい歌を歌つて良

聴いて不快になる
記念祭は思想の支配なしに

記念祭に寮歌及び校歌以外の歌を唱うことに反対する。というのは、まず第一に寮歌以外の歌はファイヤーの雰囲気に合わないばかりでなく、それを聴いて不快になる人が大勢いることと思う。やはり皆の聴いて不快な感じを起こさせる様な歌は唱わないのが妥当であろう。又、わだつみ会から出されたあの四つの歌はあれは明らかにある思想が入り込んでいるあそこに出ている「涙」というのは赤旗をさすのであつて、その外の何ものでもない。記念祭にはどちらの思想にも支配されないことが一番望ましい。

（一B西田明弘）

理想は自由な歌を
だが現状では困難

寮歌は旧いものとするのは誤まりであると思うがそうかと云つて寮歌一本にする必要もないと思う。大人の作つたものでも他人の作つたものでも良いものならば大いに取り入れて行くべきである。然し同窓会の問題にもあらわれた様にOBと現役の間に大きな差がある事を考えてたゞ取り入れるばかりでは問題が残ると思う。

諮問の所載初の諮問ち執行委員会の統制の下では寮歌一本にかぎり校長先生の話のあとコンパに移つ

理解と認識の不足
理性的に再考を

寮歌、学生歌を限るのは、もちろん単に歌われて来たものを純粋なものとして維持すると云うのであるべきではなく、そこには常に新しい歌の中にもみんなで歌う歌が一つもないと云う前提がなければならない。これから後に続く年々の記念祭の事を考えれば非常に重要なものがあると思う。理想はもちろん自由な歌をを歌える様にすべきだが現状では困難なことだ（二C白川俊介）

地歴独立は姿消す
だが問題残る社會科改訂

明後年から実施されようとしている社会科改訂のことが問題になつている。これは文部省が教育課程審議会からの答申を骨子として決定したものである。その主な内容は、小学校では高学年でも地理や歴史などの科目には分けないが、その内容には日本や世界諸地域の生活の仕方その他の学習を採入れる年代史的学習は主に中学校で行い小学校ではその基礎になるような事柄、例えば我が国の各時代の様子について理解が得られるようにする。また中学校では現在大体各学年毎に地理、歴史、政治、経済などに分けられているが、これらを重点的に組織し直して、ある期間継続的にある分野…例えば地理など…の学習を行うようにする。またこれらの分野の関連を主に考えた単元系列についても具体案を研究する等となつている。これは少くともその表面的な言葉尻から

は当初予想された地理、歴史の独立は姿を消している。つまり文部省は社会科解体に対する世論の反撃に一歩後退したかの様であるが「基本方針に変りはない」と答申の公式発表席上で明らかにしている。一方、大達文政の方針が発表されて以来、教育諸団体の間に、民主教育擁護の立場から、教育戦線統一の気運が急速に高まつていたが、海後宗臣氏（東大教育学部長）発議の社会科問題協議会では次の様に審議会および文部省に警告を発した。すなわち①社会科の本質を改善の美名でくつがえそうとしている、②政府は答申を利用し、旧来の地歴・公民の復活を企図している、③新教育批判と社会科混乱の責任を全て教師に転嫁している、④文部省は民主的手続きを無視し、政治的に拙速主義をとろうとしている等である。これに依つて答申内容は大巾に修正され

前述の如くなつたが、しかし一方地誌・年代史の学習をもりこもうとしたり、秘密的不合理な要素を挿入する窓口が開かれているなど多くの問題が残されている。また各方面から、「米国でも社会科は社会主義に通ずるものとして弾圧されているが、これからもMSAと無関係でないことがわかる」、

大学の自治に矛盾
都立大學管令改訂

都立大学では、九月に入つて今までの「都立大学管理条令」にかえて「都立大学条令」として、又それに伴う「都立大学規則の一部改正案」が発表され問題となつている。これは評議会、教授会での権限にあつたものをすべて知事の元に置いて更に、都議会の承認を経ず知事の承認だけで規則にしようとするものであつて、改訂の理由として事務が合理化され有利になるという点を第一に上げている。これに対して、職員組合では、提出の仕方や内容において大学の自治と本質的に矛盾するものとして、職場大会、拡大闘争委員会を自主的にもつて日教組などと共同して闘争を始めて現在都議会に働きかける方針を出している。

自治会でも学園の民主化を進めるという観点から教授会などに働きかける闘争を大きくしている

「現式ではなく内容が問題であるその問題点が文部省の手にあるのだからどれと対決せねばならな

各高校の注目のまと
都大附工の生徒會彈壓

去る七月のながば都大附属工業高校では、生徒が教室でわだつみ会の機関紙"わだつみの声"を売つたということが問題となり、教頭の金森氏が中心となつて生徒の自治活動、平和運動の弾圧にのりだした。しかしこの問題に関しては、先生方の中でも生徒の行動を支持する人が数人いたので"処分"というようなことはされずにすんだが、まつたく生徒会は学校の御用機関のようにされてしまつた。

理想的な姿
理性的に再考を

（一B西田明弘）

ロマンと哀愁に満つ
全体に流れる壓迫感

雁　映画評

貧欲とどんだ、金・金のみに生きる男、金によつて人間がにごつて行つてしまうあさましさ。"時は金なり"……金のみによつて大学無事通過とくる現代の不道徳な流れの中には、やはり明治から通じながれる陰気ない根性が、うずくまつているのではなかろうか。

この金貸の男も、最後には、お玉の、必死に生きぬこうとする姿を、つくづく眺め、自分が、憂商などと、あなどつた自分を深く悟つて冷静に自己をみつめようとする、どんな人間をあじわう余裕がない男にしても、真の誠実に対しては、打ち勝てなかつたのだ。

"上野不忍池にまだ雁がとんでいた頃——"という文字から展開される明治文壇に特異な存在を誇つた森鷗外の映画化だ。

明治初年の浅草下谷を背景に、金貸しから叩き上げた男が豪商と偽り、老父と二人でつゝましく暮すお玉と云う女性を妻にしたが、そのお玉が自宅前を通る大学生にあわい、しかし真実の恋心を持ち乍らも遂げられぬ道程を、当時の下町情緒豊かな背景の中に移し替えるものである。ロマンと、哀愁に満ちた映画である。

びしびしと押しまくる雰気は、艪工船より楽らかい感がするが、名のつけようのない圧迫感を起させるからだ。

生きて行く明治末葉の悲しい女の姿が、ありありと描き出されているからだ。

（一B西田明弘）

理想は自由な歌を
だが現状では困難

寮歌、学生歌を限るのは、もちろん単に歌われて来たものを純粋なものとして維持すると云うのであるべきではなく、そこには常に新しい歌の中にもみんなで歌う歌が一つもないと云う前提がなければならない。ところがこの前提は果して正しいものかどうか大いに疑問である。限ることを主張する人間に寮歌以外にみんなで歌える歌をさがそうと努力したものが何人いるだろうか。それどころか寮歌でさえも歌いたくないと云う人だつているのである。単に建設的なものに努力しないばかりでなく、一種感情的な排斥観念で寮歌だけ歌うことを主張する人が往々にしているのである。寮は認識不足であり、理解の不足である。もつと理性的にもう一度考えなおしてみた方がよいであろう（一A河尻信己）

制限不要だが統制は必要

どんな歌でも良い歌ならば歌つて構わないと考えられる。制限すべきだという人の意見は変だと思う即ち新しい歌をきらつているのは多分に"意地になつている"点がある。僕もそうだったのだが、その歌に真正面から取りくんで理性的に判断するなどということは今まで反対の立場をとつてきた人には出来ないことだろうと思う。こういう意地はすてなければならないと思うが、しかし"統制"は必要だ。僕達のクラスなどから考えると、統制の問題は、先輩との関係が重要な要素となつているようだが、各サークルなどを通じて、その先輩に僕達の考えを理解してもらうように努力すべきだと思う

（二C出口英世）

文研作品

私は
うちむしが　はつている
湿った畳に
けとばされ　なぐりつけられ
ふみつけられても
命を守つて行く
生きている
私は生活をしている
どん底に
私は生活をしている
誰にも気がねのいらない
地の利物と
黄色く枯れた野とでも
私は生活をしている
私の生活は真実だ
誰も背す事のできない生活だ
私はぼろをまとい　生活を主張する
私には自信がある
私の生活が生活であるという
自信をもつている

目
その目はひかつている
その目はかがやいている
その目は躍動している
灼熱の太陽の下で
土ぼこりと石ころの中で
その目はひかつている
きらりと振り下されたつるはしに
その目はかゞやいている
シャベルの鋭い光に
その目はかゞやいている
ぎらぎらと
その目はかがやいている
その目は
目は輝いている。

各社のレコード・樂器・樂譜
音樂書他音樂関係は
サカキバラ樂器店
自由ケ丘驛スグ

50円名画座
渋谷百親店
大映特別封切
総天然色
11日1日—10日　地獄門
11日15日　夜も晝も
16日20日　旅愁
10月31日マデ　裸の拍車
11月1日7日　腰拔ケMP
8日13日　愛の決斷
14日21日　蠻地の太陽
30圓の名画劇場
10月27日—11月2日　人生模様
3日—9日　七ツの大罪
10日—16日　三つの戀の物語
17日—23日　文化果つるところ
24日—30日　双頭の鷲
新宿日活名画座
あたたかい
福々まんじゅう
ミカワヤ
柿ノ木坂一郵便局前
生そば
更科
都立大学前
パン洋菓子
旭ベーカリー
都立大学前
カメラ
D.P.E
技術本位
サンエフ堂
都立大学門前
テアトル銀座
テアトル渋谷
シブヤ百軒店
テアトル・ハイツ

記念祭の歴史

最後の自由の爲の慟哭

第一回ファイヤーは昭和十五年

記念祭の歴史を尋ねることになつた。新しい未来を求めて苦悶する姿と〝旧制高校〟へのかぎりないノスタルジアの葛藤が我々の生活である以上、意味の無いものでもあるまい。昭和八年、ようやく高まつて来た革新の意志に燃えて校友会活動は「文化懇談会」を生んだ。そして、やはり同じ昭和八年、大正天皇誕生日を記念して十一月に行われたのである。

昭和十二年頃までは大体、運動会を中心とした簡単なものであつたらしい。昭和十五年ファイアーが始めて燃え上つた。当時の一高に模してデコレーションが行われたのもこの頃からである「そうして第十回記念祭は府高成長の記念すべき頂点であつた。連日連夜、胸燃えさかる最高の感情が八紘八宇に満ちあふれた。そして、この踊り狂う歌のかげに最後の自由のための慟哭が秘められていたことはいうまでもない。御多聞に洩れず、この記念祭を峠としてその後の府高が日を逐つてファシズムの波に洗われて行つたのである」

文字通り当時の都高には自由な精神が生存し得るかたすみもなかつた。ある者は吉田松陰によつて目前にせまつた死を直視し、正統化しようとした。あらゆる自由をうばわれた魂達の血みどろの努力が記念祭の特にファイヤーにその真昼の猛鋒を見出したのである。また寮における教師を中心とした家庭的な雰囲気が主として彼等をさゝえていた様である。そしてその様な中で反戦平和のスローガンが高く掲げられ、叫ばれるはずがない。寮歌の中に〝自由〟という文字が響かれてさえも問題になつたのである。ゆがめられた抵抗は、解放と自治を要求して寮を中心にわずかに散発的に起つたのである。

みなぎる解放感

第十七回は一週間

やがて、昭和二十年終戦をむかえた。

闇の夜に再びは篝火の燃えさかる。便所に書かれたおびたゞしい落書はこれを如実に物語つてくれる。こうして第一寮歌、陽炎ゆるわずか一年半ばかりの間に続々と作られたのである。これ等の歌は共通の憂愁をその底にたゝえた暗い影をもつ歌であつた。毎年さゝやかながらも燃え続けたファイヤーは、彼等にとつて青春を謳歌するといつた大それたものではなかつたらしく、むしろ自己の解放の方が大きな問題であつたのだろう。従つてファイヤーもあくまで個人々々の問題だつたのだ。しかしそのファイアーも第二次世界大戦の激化と軍閥の横暴の下に禁止された。もはや出口は完全にふさがれてしまつたのである。

今皆しも想いはつきず禁止されていたファイヤーが第十六回記念祭をむかえて再び燃え上つた。今まで抑えに抑えられていた彼等の生活が解放されたのである。再び赤々と燃え上つた、ファイヤーを目の前に見た彼等の感慨はどんなものであつたろう想像に難いものがある。彼等は歌つておどつた。そして声を出して泣いた。今や「新しき自治の朝」はきたのである。

溢れるばかりの感激の中に戦後初めての第十六回記念祭は四日をもつて終つた。そしてこの時、都立駅を占領し軍の運転を止めるという事件が起つた。彼等はおさえきれない解放の喜びと社会に対する反抗をこの様な形で表現したのである。やがて新憲法が施行され、占領軍による種々の改革がほゞ終了するころになると、非常な勢で学生運動が唱われていた平和と自由を求めて展開された。青年共産同盟が結成され、全学連ができ上つたのもこのころである。

新しい人間の創造

無氣力さと無秩序をけやぶつて

一人の先輩は、当時を回想してこう書いている。「新制第一回の記念祭は全日本の学生の組織全学連の連合文化祭の一部として挙行され、最終日に予定された招待演劇「霊雨」は禁止された。第二回は全国を吹き荒れたレッドパージの嵐のあとの重苦しさを中にはらんで行われた。そして第三回は古い都立の、否、日本のインテリ青年のだれもが持つていた無気力さと無秩序とそれをけやぶつて祖国の

また共学の完全実施をも実現してきた。それは人権の尊厳さと健康さを守つていこうとする精神であり、現実の正しい認識を生みだしているものである。それは民主的な目的を追求しているが、このことはとりもなおさず民族に対してのニヒリスム（デカダンス）を克服していくものでもある。

このことの重要性は、平和への要求の痛感される現在、いくら強調してもしすぎるものではないと思う。この尊いあゆみの上に立つて今年の記念祭が行われようとしている。人権の尊厳をうたい続けてきただろうところの都高の伝統は、現在の場で営々辛苦の五百の教師生徒によつて照らし出され、父兄先輩によつて祝福されるであろうと期待するのである。

（本校教諭）

現実に立とうする意欲の闘いの中に過ぎた。そして古マントと夜毎のコンパに代表された「伝統」は明日えの前進の前に崩れさつた」

こうして新制第三回記念祭は行われ、川上君が墜死した。新しい明日へのまじめな意志と同時に旧制高校への強いノスタルジアが再び出口をふさがれた当時の学生達の間に支配的であつた事は疑いない。川上君の死は、そういう生活の一つの頂点であつた。やがて我々の生活に一つの転期がやつて来た。第四回記念祭をむかえて、当時の新聞は、こう高い調子で呼びかけている。「親愛なる学友諸君！僕達は第四回記念祭を感慨と戦争準備、ファシズムとそれに対する闘いのうちに迎えた。記念祭

記念祭について

小野牧夫

先日私の勤めていた学校の生徒が数名、この都高へやつてきた。ちょうど記念祭の意義について討論をしている生徒大会に案内することができた。「どうしてあんなに気軽に話すことができ、しつくりと統一ある雰囲気がでているのか」と聞かれて、私はこの半年ばかりの見聞、体験を通してこの学校の切り開いている道を考えてみた。今の、記念祭へむかつての活動の一こま一こまは、その道をますます明瞭にしてきているようだ

春の旅行飲酒問題において、臭いものには蓋をしろの猥褻性を破り、聞軍を全校の人々にさらし出し、その批判討論にまかせていこうという努力は実をむすんで、全校集会の中で激昂的な話しあいが行われた。この中から、学校の生活は、その人の主観的意図はどうあるにせよ他の人を苦しめ抑圧する結果になつてはならないということ、また学校に統一体としての秩序をつくりあげていくことが確認された。この討議が腹の底をわつてのものであつたことは、一つの連動部で禁煙が申し合わされ、他の部へひろがつていくという事実が誰も目をつけている所でもない所におきているということが雄弁に物語る。

この輝かしい成果をあげた批判討論の集会の形式は何によつて支えられているのか。それはてく最近はつきりした次のようなことがらによるのにちがいない。先日、父兄生徒教師の三者での教育懇談会を行つた。その時父兄は口をそろえて生徒の心を聞きたがつた。

けれども、生徒の口は開かなかつた。その次の同様の懇談会では、生徒はテーブルスピーチを用意して、家庭で父母がその考をおしつけることは困ると先づ訴えたのである。こゝにはじめて思うまゝに話が交換された。お互が批判しあえたときに、お互が分離するのではなくかえつて強くむすびつけられていくという方法を、実践を通して身につけてきたのだ。あの批判討論の集会はこの方法をつらぬいていく上になりたつたのである

この方法は学校のすみずみにまでしみとおろうとしているが、さらにそのなかみとなつているものは何であろうか。酒を飲まないということを実現させている精神はまた共学の完全実施をも実現してきた。それは人権の尊厳さと健康さを守つていこうとする精神であり、現実の正しい認識を生みだしているものである。それは民主的な目的を追求しているが、このことはとりもなおさず民族に対してのニヒリスム（デカダンス）を克服していくものでもある。

このことの重要性は、平和への要求の痛感される現在、いくら強調してもしすぎるものではないと思う。この尊いあゆみの上に立つて今年の記念祭が行われようとしている。人権の尊厳をうたい続けてきただろうところの都高の伝統は、現在の場で営々辛苦の五百の教師生徒によつて照らし出され、父兄先輩によつて祝福されるであろうと期待するのである。

（本校教諭）

クラス意識から自校意識へ

新宿高校の文化祭は去る十、十一日に催された。当日講堂では九時より四時十分頃まで劇四本に合唱独唱があつた。劇四本とは前日行演したまでの選抜があるそうだ。展覧会では絵展七本、各部展十三本、自治会展一本があつた。観劇した時に父兄が全体の三分の一位いた。本校一年で行う予定の夕鶴があつた。

展覧会で「学制八十年」では明治より現在まで教科書、写真を資に

また自校の沿革をアルバム、雑誌賞状等を通して展示、学生展では家庭生活、学校生活、思想、現代学生の生態の表出を射止た貴重資料があつた。各部展では現場実験洗練された資料等、地域社会の人にも学生にも退屈を感じさせないものであつた。各部展では自分達の研究を説明していた。観覧者も多かつた。絵画の展示は配置、作品共に我校に比べて見劣がした。

総じての印象は文化祭が地域社会と密接に関連し自我意識やクラス意識でなくて自校意識なるものが強く出ていた。

勉強即ち祖国の建設

朝鮮高校文化祭訪問

先日、朝鮮人高校の文化祭を見に行つた。昨年の記念祭以来、お互いに色々な機会にいつしよに活動して来て、彼等朝鮮の人々の中に我々と異つた、何か共通ものがある事を知り、それを確めてみたいと思つたのである。それだけ

ジャズの響き

晴星高学芸祭拝見

靖国神社畔の私立晴星高校の学芸祭を拝見する。終りの方を見ただけですべてを判断することはできないが、まず驚ろいたのは〝ジャンジャン、ダデイ・ダデイ〟といつたようなジャズの音響が聞こえて来たことだ「現代学生の典型」とかくその論議はきびしいが出演者はまじめな顔で演奏を続けていたし、聴衆も案外な態度で聞いていた。プログラムにも以外にジャズ番組が多かつた。

劇は有名な修善寺物語や〝川端〟とかいうものが演じられていたがあまり観客にとけこんでいない。都立のようなガンガンと響くような力がなく、生徒もただ見ているに過ぎないといつた感じで。弁論会も行われていた。

（文責F）

川上を偲んで

三B　荻島　清

校庭の銀杏も黄ばんで朝夕の冷気が身にしみるようになると今年も記念祭がやつて来る。灰色のあせた屋を見せる体育館の隅、そこは親友川上が墜死した悲しい場所なのだ。思えば彼は私が都立に入つて知つた最初の友人でホルモンタンクなるあだな通りの熱血児その著でその上どことなく滑稽味があるのでみんなに親しまれていた。

私が病気のため学校を休まねばならなくなつたのは彼が死ぬ年の六月であつた。私は彼の家を訪問した。「種々とお世話になつたが少し養生のために東京を離れねばならなくなつた。君ともしばらくのお別れだ、再び良くなつて出て来るから元気に暮していてくれ」私は悲しさを耐えて言葉少なにいつた。彼はし嬉しく考えていたが「荻島、俺ラヂオ作つてやるから病床に寝ていてくれよ、そして早く良くなつて出て来いよ、もし入院しなければならなくなつたら度々見舞に行つてやるからな」川上はいつもに似合わずもんみりとした口調でいつた。そしてハーモニカを取出すと吹いてくれた。あまり上手とはいえなかつたが私はその気持だけでも感謝で一杯だつた。

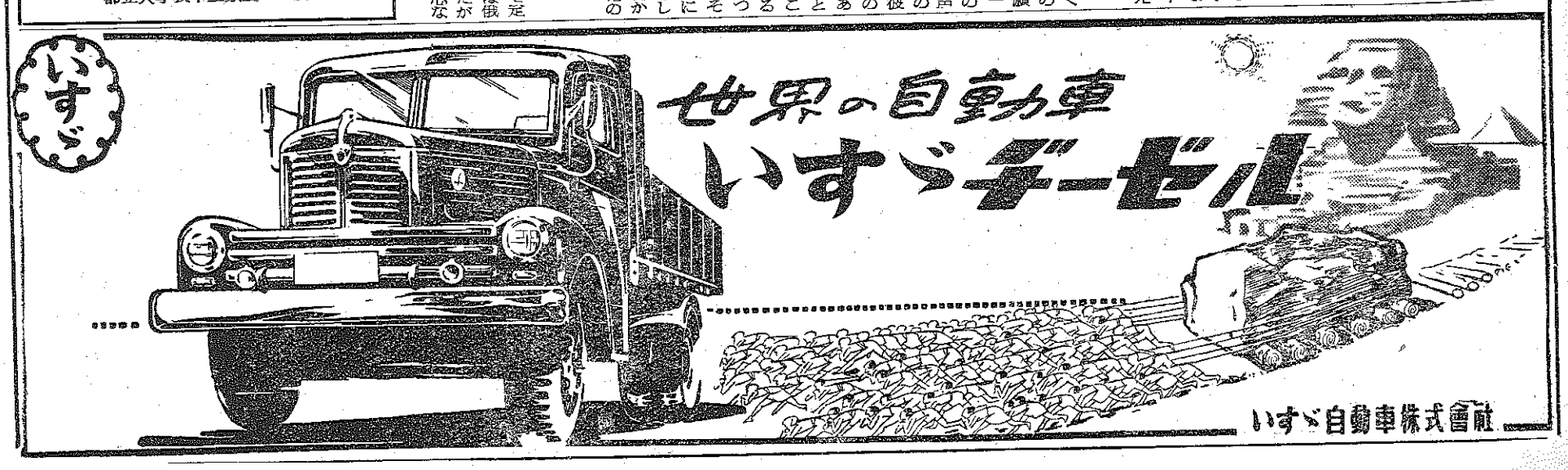
「川上有難う早く良くなつて出てくるよ」と心にちかつた。「健康でいろよ」といつてくれた彼が墜死してしまつた。理由は何であれ私としてはいつまでも生きていてもらいたかつた。再び登校した時もう彼の姿を見ることが出来なかつた。しかし私はいつもあの煙突の上に登つて潔然の気を養つていた彼の姿が眼にちらついて取れない。夕暮れの体育館の屋上から今にでも彼のハーモニカの音が聞えてくるような気がしてならない。

薄暗い。「この間までは机もなく板の間に座つて授業をしていたのですが、今度やつと教育庁に嘆願して机を入れてもらつたのです」と文工隊の人はいつている。その上隣接の米軍基地の機関銃の砲声で時々授業は中断されるというのである。それにもかゝわらず、彼等の表情は意外に明るい。彼等の前途には共通の未来があるのであろう。彼等にとつて、勉強するということは、そのまゝ生活することであり、祖国の建設を意味するのである。彼等の一人はこういつていた。「私達が授業を休めばそれだけ祖国の建設を遅らすことになる」と。私は、何十年となくしいたげられて来た彼等の中に何か共通の〝きずな〟があるのを見のがす事が出来なかつた

定時制の運動會

十八日（日）本校グランドで定時制運動会が行われた。当日は俄か雨でゲームは度々中断されたが殆んど全生徒の参加の下に熱心な声援が乱れとんだ。

いつもスバラシイ味、量の
玉家のパン
都立大学坂下玉家製パン店



記念祭せまる

いよいよ来る一日から始まる記念祭には、各部ともそれぞれ準備に余念がない。今年は劇、放送劇、合唱等の届出が十九本に達したが

工夫凝らす各部

演研は「嘘娘」

放研「山霧の深い晩」

○…演劇研究会　秋ともなれば記念祭、記念祭といえば劇というのが我が演研の運命――ともいえるだろうか。それで今年も八月の夏期休暇が終るとたゝちにレパートリーの選択に入り、十月初頭より読合せに入った。

本年度最初の四月公演の後を受けて、七月にはアトリエ公演として「牛の仔」を予定していたが時間の問題等から中止となり、そのエネルギーを記念祭公演まで貯える事にしたので部員の意気は大いに昂揚している。それで今回の公演に取り上げた黒川徹朗作「嘘娘」においても演出の方針等に可成り革新的な方法をとり、演劇研究の名目を一層確実なものにした。

十月十七日現在、一応本読みを終了して十九日より立稽古に入るとにかく、今回の公演大はいに期待されて良いものとなるだろう。

○…放送研究会　放研は部として山岳班同様、劇「山霧の深い晩」を一時間で上演する。その他展示としてテレビジョン、送信機、テープレコーダー等放送に関係ある機械を展示するそうである。記念祭までのおたのしみという所か、余り多くしゃべってくれなかった。

日本古謡の小曲集など

○…音楽研究会　校舎のある一隅から流れ出てくるコーラス、何か普段とはポリュームがちがうようにも思はれる。これも記念祭というものゝしわざであろう。例年通り合唱器楽の発表合唱は例年とは一寸傾向を変へて日本古謡の小曲集とロシア民謡集器楽はOBと共演でオモチャの演奏、普段の成果を表すと同時に、音楽のよさを皆さんにわかつて頂く様に張り切つている。オンチの部室に入つて彼等の意見を聞くと「何しろ合唱は楽しいですよ。心の底からの声で歌へば、悩みも憂うつもみな消えて、残るのは喜びだけです。」とのことだつた。

○…山岳部　山岳部の予定としては現在の所部員三Aの湯山周平による創作劇「ある町角にて」をやる計画である。内容は新宿のサンドイッチマンとアルバイト学生の対話でその生活態度を簡単に描いたもので都立の学生の全然知らないような知識をこの劇をみることによって得られると思う。その他の計画としては三日か四日間校庭にテントを五ツ張り、一般にも開放する予定である。

○…水泳部　〝飛び医者〟―喜劇―　原作―モリエール　演出―清水・吉田OB　若い恋人二人とそれをめぐる人々のユーモアを展開させていく。期待できるキャストの努力ぶり。

文天　大々的な模型

生物は幻灯を

○…生物班　生物班の部長さんに記念祭における活動について聞くと、手帳を出して説明してくれた。

一、条件行動
二、けい卵の発生
三、ショウジョウバエ
四、プレパラート
五、心臓のグラフと遺流
六、顕微鏡写真
七、骨格標本（ニワトリ）
八、走性
九、幻燈（ウニの発生）予定
十、斉先生が一年女子を指導して何か行う。

その他、バレー、ソフトに参加する。

○…天文部　天文班としては非常に大きな展示を行うらしい。まず最も大きな仕事としては、天球儀の製作、月面（月の表面）の粘土模型、太陽系の模型、その他色々な天体の写真、天体に関する資料等を展示する。

その他人目するものとして望遠鏡新聞、美研、二A、二C、わだつみ会の辞退によつて一応の解決をみた。次に各部の構想なり抱負なりを聞いてみたので紹介しよう。

○…放送研究会　で天体をのぞいていただこうと計画しているまた運動には、バレーソフトに参加してうでをふるう予定。

基地展（社研）や文集（つづみ）

新聞は歴史で「都高時報一号から」

○…わだつみ会　わだつみ会としては今度の記念祭にそなえて講成詩を予定していたらしい。しかし時間がたりないで困つている他の部を考えてこれは取りやめにしたかわりに文集を出してこれによって皆んなの平和観がどういうものかを知りたいというのが目的だそうです。

○…うたう会　これとは別にうたう会の方では今までのうたう会で練習した中から選んで合唱する事です、尚お昼休みにやさしいうたを選んで校庭でスクエアーダンス形式の皆んなのたのしめる会を催すそうです。

○…社会科学研究会　社研は二つの仕事を計画している一つは今度全力を尽してやつた立川基地調査をまとめて基地展として公表することである。もう一つは雑誌を発行することであるが、これは部員及び有志の投稿と部員の時事問題共同研究（松川事件、歴史教育の問題、水害の問題）を中心に編集するつもりである。

○…新聞部　新聞部では先ずこの新聞を〝記念祭特集〟として皆さんに送る。当日三日間はABC対抗の結果、劇展示等の反響などを中心として日刊新聞を発行する予定である、又戦後の都高時報を復刊一号から展示する。

○…文学研究会　今まで文研内部だけで行動してきた。作品も文研内部だけで読んできた。

第一学期　作品を小冊子として月刊位にしたいと思つた。それで具体策に入つた。

原稿発表形式は、文研内部は勿論の事、募集による原稿を重視しなければならるまいと思つた。

話しあつてゆく種々の機会は、積極的に作らなければならない。

〝廣く一般から〟文研で小冊子を発行

九月　試験にぶつかつた。それで十月に原稿を募る事にした、そしたら発行期日が、記念祭ときまつた。

そこに記念祭の目的をみつけた、また、従来の消極性をも脱却するために、我々は目的に従事しその中で自然と自分達の態度を緩和していこうと思つた。

○…機械技術研究会　第一会場〝新しい電車展〟明治の世に京都の裏町をゴトゴトと走つた小さな電車こそ、我国電車界の草分けであつた。そして今日電車はまたしても新しい段階に第一歩を踏み出しつゝある。その新しい段階とは！　絵や写真をふんだんに取入れてわかり易く解説する新しい電車展！

第二会場〝鉄道模型運転会〟恒例の運転会である。〝鉄道模型は良い趣味である。一生を通じて行える趣味である。その意味で鉄道模型の普及もさることながらやはりスピードとユーモアに満ちたその運転の発する面白さを見ていたゞく。

第三会場〝難自動車展示会〟最近我々が良く見、良く聞くものはバツバツバツと騒い音をたてて行く小さい自動車達である。この一年間にその普及力はものすごいものがあつた。さてこの人気はどこから生れているのか実物をスラリ一堂に集めて見ていただく会場時には良い点つてやつたことも結果に於てはその逆効果に精神を砕かねばならぬことがある。此れと同じ様なことが毎年そうではあるが本年も夏季休暇中の学校側に生徒として所謂宿題に従順ならしめ様とする好ましからざる意図にもほの見えているのである。勿論当局も我々を考慮して呉れた上での所為ではあろうが此れは実の所考えて呉れた心算が真にはその如くになつていないものであつて有難迷惑に外ならない。

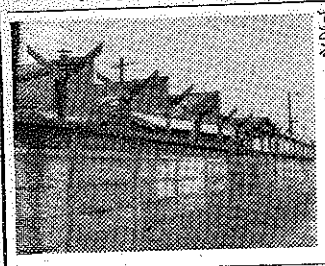
電車自動車に三教室を

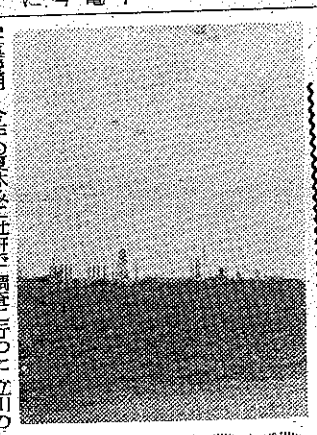
先生先輩を交えて九ッの實驗

○…物理化学研究会　片山、宮下両先生、それに先輩各位の御指導の下に、円満な人格完成をモットーとして班員一同毎日楽しく生活している。

本年は高圧放電実験、霧箱、光の干渉実験等九つの実験、展示をとり揃え、充実した記念祭の一翼を担う心構えである。

部対抗ソフトは残念ながら音子の好打に名をなさしめたが、バレー、サッカーは出来るだけ頑張りあはよくば優勝の栄冠をかちえんものと班員一同大いに張切つている。





基地展（社研）から

写真説明　今年の夏休みに社研で調査に行った立川のもの　右工場の一部遠景。左中は工場の建物、へいは一寸の穴でさえぞふさいである。

一・三年各クラス　劇を上演

異色假装行列（2C）

○…異常な熱意でクラス全体が一つに統一されている一Aでは、定期試験の前からホームルームを中心に記念祭に関する討議が行われていた。そうして脚本委員会なる委員会で具体的な演劇上演の計画が進められ木下順二作〝蜘蛛の巣〟が脚本に選ばれた。上演時間は二時間の予定で、クラスメート全員参加の元に監督増田、演出田中を中心に毎日練習が進められている。

○…一Bは生物と地学を選択した人が、半々のクラスのため、まとまりということが困難であつたが、その為に、我々は目的に従事しその中で自然と自分達の態度を緩和していこうと思つた。

○…一Cでは執行委員会でいろいろ問題になつたが劇を上演することに決つた。脚本は〝才女気どり〟で上演時間一時間。クラスの半数十五、六名が中心に動いている。演出能浦さん。

○…三Aは「島原の乱」を脚本小中陽太郎、演出清水広一郎で上演する。真紅に輝く夕映えーだが―その空の下今日もまた、領主の百姓に対する苛烈な抑圧は続けられている。そしてこらえにこらえてきた農民の怒りは遂に爆発した…大学二十三名が出演する。

中国人として本校に学んでいた三年C組の陳桃根君はこの程帰国の途についた。

○…戦後の悲劇を扱つた「深い疵」を期待された二Aでは、辞退して展示に主力を注ぐことになり対立する米ソを冷静に理解し、微力ながら世界平和に貢献する目的で「米ソ展」を催す。

○…各活動の主力たる二年生で、劇を上演する唯一のクラス二Bでは、八木隆一郎作「湖の娘」演ずる。

○…最後に二Cでは、昨年の様に仮装行列を行う、今度のテーマは「終戦から現在まで」で全校的なものにするため、一般の参加を望んでいる。

○…三A　劇としてとたん場になつて決まつたのが「還魂期」皇帝（栄井）王妃（杉山）魂を入れ換える術を知つている青年（西山）その恋人（谷口）を中心とした、ちよつとシャレタ劇。所要時間一時間。但し、寝ぼけ眼で見るとこんがらがるという代物。

○…三Bでは「せい子」―本記念祭唯一のホームドラマを上演する二十才の誕生日を迎えたせい子の結婚にまつわる問題をその家庭生活を背景にユーモアたつぷり描いている。最初から必ずしもクラス全員のまとまつた意見として出て来たのではなかつたが、全員が何かの形で参加することにして受験という困難な条件ものりこえ頑張つている。

展覧會に日頃の成果を

○…美術研究会　コツコツと黙々と？またはダベりながら各々別個で楽しみを味つている美研でも、記念祭に向つて何かを求めて展覧会というものに自分達の日常の成果を現そうとしている。…美研の記念祭行事として部員の作品と一般生徒の展覧会を行うことに決定した。

将来を目ざして生活をして行こうとする者、唯娯楽として楽しんでいる者、これらの人々は各々違つたことを考へてはいる。がしかし、一つの記念祭に向つて進んで行く目的は変らない。自分の絵のよさと欠点を一般からの批判によつて一層みがきあげて行こうとする努力、唯それのみである。

投稿　〝訴うる一つ〟

に亘り度くないので具体的説明は省くが、いずれにせよその殆んどが思うも癪の種である程、中途半端なものになつてしまつた。事実こうした半は強制的なアクティヴィティに対し少なからずレジスタンスを感じ故意に宿題に着手しなかつたとの同意の友も少なくないのである。尤も我々は宿題を出すなと言うのではなくその程度問題を問うているのである。

今更愚痴をこぼして見たところで「六日のあやめ」であつて見れば昨日を今日に出来ぬかぎり此の「誰目の皮」を剝がすことは不可能なのであるが何か割り切れぬものを感ずるのは、仕方のない事実である（二B　大方　知明）

厚生會案内
高級マーク入りノート
大判　二五圓
小判　二五圓（市価四〇）
理髮
洗髮　一〇〇圓
調髮　八〇圓
丸刈　七〇圓
その他色々御座います
通用門側別館内
厚生會

古書の御用は
都立書房
都立大坂下

参考書専門の
自由書房支店
自由ケ丘美観商店街

教科書・参考書
恭文堂
学芸大学駅前

文具と画材
希望堂
自由ケ丘銀座

BOOKS
東横沿線随一の内容充実せる店（洋書部新設）
自由ケ丘駅前　不二屋書店
電話（08）2422 2688

クスリ　計量器
中村藥局
都立大学前西口大通
電話（08）3954

新刊書籍・雑誌
千文堂中村書店
目黒区下目黒1丁目3（権之助坂）